

♪ 我等の生業

我等の生業 ^{なりわい} さまざまなれど
集 ^{つど}いて図る心は一つ
求 ^{もと}むるところは平和親睦 ^{やわらぎむつび}
力 ^{つと}むるところは向上奉仕
おおロータリアン 我等の集い

四つのテスト

言行はこれに照らしてから

1. 真実かどうか
2. みんなに公平か
3. 好意と友情を深めるか
4. みんなのためになるかどうか

名護ロータリークラブ週報



国際ロータリー第2580地区
NAGO ROTARY CLUB WEEKLYREPORT

国際ロータリー (RI) テーマ: **Rotary Opens Opportunities**

2020~2021年度 国際ロータリー会長 ホルガー・クナーク

第2164回 定例会 記録 3月10日(水)

司会進行SAA 町田浩美 プログラム副委員長

- ① 開会の点鐘 儀保 充 会長
- ② ロータリーソング 「♪奉仕の理想」
- ③ 四つのテスト唱和 福谷 誉樹 会員
- ④ 会長挨拶 儀保 充 会長
- ⑤ 幹事報告 前田 裕子 幹事
- ⑥ 委員会報告 儀間 敦夫 社会奉仕委員長
(代理 前田幹事)
・ 3月20日(土) さくらの会主催
名護さくら開花促進プロジェクト 参加依頼
- ⑦ 卓話 内山動物病院
名誉院長 内山 博 様
演題 『災害時の動物救護』
- ⑧ 出席報告 安富 辰也 会員増強委員長
- ⑨ 閉会の点鐘 儀保 充 会長

3月定例会予定表

- 3日(水) 理事会・例会
- 10日(水) 協議会・例会
- 17日(水) 夜間例会
- 24日(水) 定例会
- 31日(水) 休会

4月定例会予定表

- 7日(水) 地区大会へ振替
- 14日(水) 理事会・例会
- 21日(水) 地区研修協議会へ振替
- 28日(水) 夜間例会

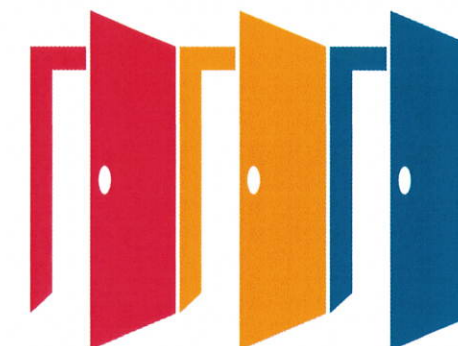
名護ロータリークラブ

創立: 1974年6月26日

地域: 沖縄県本島北部全域

会員数: 35名

(2021年3月17日現在)



ロータリーは機会の扉を開く

昭和50年 本部町で開催された沖縄国際海洋博覧会に、
世界のロータリアンの為のメークアップの場所として名護RCが設立されました。

名護ロータリークラブテーマ 「例会出席でロータリーを体感しよう」

- ・ 例会日: 水曜日 12:30~13:30 毎月最終水曜日 19:00~20:00
- ・ 例会場: ホテルゆがふいんおきなわ (名護市字宮里 453-1)



会 長: 儀保 充 【事務局】〒905-0011 名護市字宮里 453-1
副会長(ELT): 吉田 勉 【電話&FAX】 0980-53-4568 (直通)
副会長(ノミ): 濱元 清 0980-53-0031 (内線232)
幹 事: 前田 裕子 【HP URL】 <http://www.nago-rotary.org/>
会報委員長: 崎濱 秀光 【E-mail】 office@nago-rotary.org

ニコニコBOX

次回のご協力よろしくお願いします!

小 計	¥	0
累 計	¥	69,350

~事務局 泉川美花(旧姓:赤嶺)さんより挨拶~

約4年間、名護RCの事務局として働かせて頂き、本当に感謝しております。大変お世話になりました。ありがとうございました。

また皆様にお会いできる事を楽しみにしております。

中央: 泉川 美花さん、右端: 泉川 福汰良くん(1歳1ヶ月) →



← 福汰良くん、指がしっかりと「1歳」しています♪



卓話

演題『災害時の動物救護』

内山動物病院 名誉院長 内山博様

明日で3.11東日本大震災が10年になります。有珠山の噴火というのは、2000年で20年前なんですけれどもその前に阪神淡路大震災があり、初めて全国的に動物の救護とはどういうものかということで動きはじめました。その時に今度何かあった時に我々獣医師は動物のために何ができるか、と作った組織があり、1995年の阪神淡路大震災の5年後に有珠山が噴火しました。

こちら北海道の有珠山、25年～30年に定期的に噴火すると言われていて、自分が室蘭に住んでいる時に2回噴火しています。明治・大正にも噴火があり噴火が定期的で、管理しやすい場所であったとされています。予知連がありまして、前回の噴火の時に動物のことはあまり考えられていなかったのですが、2000年の時にはとにかく人が避難するが動物がまだ追いついていかないというような状況でした。

実際噴火したのは2000年3月31日。28日に火山予知連絡会議が「噴火するぞ」と住民避難を呼びかけた。人は避難したけど、また帰ってこれるからと動物は置いて行った。また、この時点では避難所に動物を連れて行っていいという話はなかった。

ところが、我々はやばいぞと。次の日に動物救護センターを設立しようと会議を設けました。31日に道や全国の組織の緊急災害時動物救援本部に協力依頼をしたその日、1時8分に噴火しました。噴火した当日に救護センターの設立ができました。4月1日に動物を管理できる場所を作ってすぐオープン、最終的には8月8日まで4か月程の動物救護のボランティア活動でした。私はここのセンター長でしたので、4か月は仕事をせず、毎日ここに行っていました。国は総理府、北海道庁、農林水産省、我々が全国の組織と日本で初めての動物救護という形でやりました。実践したのが2000年が初めてでした。特に動物のボランティアは今までやったことがないし、我々もやったことがないし、どうしていいかというようなところからはじめました。実際には動物を預かったのはこのような場所です。温度計がぶら下がっていますが、4月3日でマイナスになります。暖房をたかなければどうしようもならない。ところがプレハブを借りているから、暖房するとブレーカーが

落ちてしまう。たまたま、私はロータリーに入っていたので北海道電力の支店長がメンバーにいたので支店長へお願いしてアンペアをあげてもらい、暖房もOKになった。



4月3日に開設して、50頭くらいの犬猫がきました。噴火したのが3月31日、災害があると人もそうだが、落ち着くと動物に目が行く。報道関係を使おうと、プレスにオープンしたところ、最終的に一番多いのが12日に177頭。キャパを完全に超えています。ああいうプレハブなので50頭が限度なところに、177頭の犬猫を預かるとなり、パンクするぞとなった翌日にガクンと下がりました。この時に一部封鎖が解除されたから。本当にタイミングよく解除になったおかげで何頭かは帰ったが、4月終わりには160頭以上の犬猫を預かっている状態だった。



これはバリケン、広いところに枠組みを作って、犬も楽し我々も楽しと。封鎖になっている場所は人が入れないので、消防関係の人が見回りして、我々の要請でドッグフード・キャットフードをとにかくおいていく。そうすると、離れているところの犬猫が食べにくる。この子たちを連れてきて我々の動物救護センターで預かって管理する。ところが封鎖されている場所の繋ぎっぱなしの犬猫はほとんど亡くなってました。これは仕方がない。猫も家に閉じ込められている子も亡くなっていることが多かった、これはこれからの問題ということで我々もずっと討議したんですけれども、現実には難しい。

これは、ボランティアの方々。動物看護師、学校の生徒さん。授業の一環として取り入れてもらった。ボランティアが考えたのはまず地域では動物が好き人も嫌いな人もいるわけです。そういった時、地域にご迷惑をかけることもあるので、ボランティア

には、まずお昼が終わったらこの地域のゴミ拾いをしてくれと、このジャンパー着てゴミ拾いをしてもらった。こういうことをやっていかないとボランティアとして認知されないのかなという気がします。ボランティアをやるには、地域に根差さなくてはいけないのを実感しました。

このネクタイは父の日にボランティアのみんなからもらったネクタイです。20年前のネクタイだがまだ大事にしています。

我々でなく民間の方やNPO、市町村の方が写真を撮ってきて、避難所に配っていただく。ローカルのFMを通して飼い主が見つかったとなる。その協力があって我々の運営ができたと思います。

最終的には飼い主が面倒見れない、あるいは4か月預かったのが妊娠している子もいた。それで、犬猫も生まれたのでその子たちの引き取り手も含めて7月3日に新しい飼い主を探す会をやりました。その時は500人ほど来ていた。37頭くらいいたが、倍率が2～3倍以上で、全員もらわれていきました。うちに来たのは18才くらいまで生きていた。病院の為に役立ちました。供血犬として、採血して輸血するときの為に犬をやらしてもらった。採血するとおいしいものをあげるとちゃんとおとなしくする。だいたい他の犬を助けることができたと思います。

置いて行った犬猫はやはり餓死する。解除してないが自宅に荷物を取りに行ったりした方が2時間だけヘルメットをかぶって出てくる。その中で、床屋さんですが、50日ぶりに手元に猫が戻って来た。ところが全然痩せてない。猫は家の中に入れてたが、引き出しを開けて煮干しとかいろんなものを食べたり、トイレで水を飲んだりしていた。猫は生きていく力はものすごくある。犬は残念ですが、置いてった子たちは一頭も助からなかった。

検死する立場にあるので、必ず一緒に立ち会っていた。一番感じたのは、猫が5匹衣装ケースに入った状態で亡くなってました。5日後なのですが、猫がなくなったのはどう見ても1週間以内。まだ具合も何もでない。ということは飼い主さんが来るまで40日間、ずっと待っていたが耐えきれなくなって亡くなった。それを見たときに我々は何をしなくてはいけないのか、ものすごく感じた。犬はほとんど早く亡くなっているから連れてくること

は無理で、埋めて帰ってきたという方が多かった。

こういう講演をするときに戒めも含めて必ず言うのだが、「動物は必ず連れてきてくれ」と。「人は大事だ、でも我々は獣医だから動物のことはできるから連れて来てくれ」と。「我々獣医師会は必ず動くから、1日～2日は我慢してくれ」ということを話しています。そうすると必ず動物と一緒に避難するというふうになってくれました。

2000年の時は動物の事ができなかったが、2000年に提言した盗難防止も含めてマイクロチップを入れないといけないと動物愛護法で決まりました。我々が提言してから20年後にようやく実現するようになりました。2014年に初めて防災基本法の中で動物も一緒に避難しなさいということで「同行避難」とはじめて文章化されました。2年後、避難所でも動物を飼える場所も作らなければならないとしたのが2016年、我々がやってから16年かかっています。10年前の東日本大震災、今の南相馬市で東日本大震災の前に講演したことがあるが、残念ながらそこは原子力発電所があった。結局は入れない。どうしようもない。悲惨なことになった。実際の災害ではあるが、原子力は人災ですからあれはやはり苦しい、我々も中には入れない。救護してきても放射能で汚染されているかもしれないからダメだと。その現実を見たときに、本当に人間は罪作りだと思いました。



↑中央：当時の内山会員 ↑ガバナー賞受賞！

やっぱり我々動物と一緒に生きることは、ものすごく自分の中で生きる糧にもなる。人が大事なのは当たり前だが、我々獣医師ができるのは動物の事なのでそういうことに関しては、もう年だからがんばらなくてもいいかなと思いますが、実際現場になるとまたやらなくてはならないと思っています。

最後にこの年にガバナー賞をいただきました。ちょうど地区の地区大会の時に個人的に表彰を受けまして、ロータリーって有難いと思いました。(紙面の都合上、卓話の一部を割愛しています、ご了承ください)